



# 2021年度 東京慈恵会医科大学

## 【 講 評 】

昨年度と同様の形で出題された。以下、大問ごとに述べる。

### 1. 確率 [数学A] (やや易)

玉の取り出し方に関する典型的な問題である。試行の回数も少なく単純であるため、この問題は落とせない。

### 2. 微分法・積分法 [数学Ⅲ] (標準)

(1) は  $y$  軸回転体に関する易しい問題であるため、確実に得点する必要がある。(2) は面積を表す定積分が計算できないので、はさみうちの原理により極限を求める。比較的簡単な不等式ではさむことができるので、完答したい問題である。

### 3. 三角関数 [数学Ⅱ] / 整数の性質 [数学A] (やや難)

(1) は三角関数の定義がしっかりと身につけてれば、単位円を用いて容易に解くことができる。他の解法で解くこともできるが、計算が煩雑になり答えまでたどりつけなかった人も多いだろう。(2) は余りに関する有名な証明問題で、解いた経験がある人は解答しやすかっただろう。今回の試験では一番難易度が高く、実力差があらわれやすい問題である。

### 4. 数列の極限 [数学Ⅲ] (標準)

図形の面積に関する無限級数の典型問題であった。帰納的に作られる四角形が正方形であることを示し、面積がなす等比数列の初項と公比が求まれば、答えを求めることができる。記述で減点される部分はあるかもしれないが、答えの値は出したい問題である。

頻出分野である確率、微分法・積分法 [数Ⅲ]、整数の性質から出題されたため、焦らずに取り組めた人が多いだろう。ただ、総合的な難易度は高いので、全体で6割程度の得点を目指したい。

## 【 解 答 】

1. ア： $\frac{8}{81}$ ，                      イ： $\frac{61}{243}$

2. (1)  $\pi e^{a^2}(a^2-1)$ ，                      (2) 1

3. (1) 解説参照，                      (2) 解説参照

4.  $\frac{2-\sqrt{2}}{2}$

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

【 解 説 】

[1]

1個のさいころを投げる操作において、4以下の目が出る事象をA、5以上の目が出る事象をBとすると、各事象が起こる確率は

$$P(A) = \frac{4}{6} = \frac{2}{3}, \quad P(B) = \frac{2}{6} = \frac{1}{3}$$

である.

(ア) Aが起こると1個、Bが起こると2個玉を並べるから、操作を5回行って並べられた玉の個数が7となるのは、Aが3回、Bが2回起こるときのみである. このとき、左から3番目の玉が赤玉となるのは、次の2つの場合である.

(i) 最初の2回でAが起こり、3回目にBが起こる

(ii) 最初にBが2回起こる

$$(i) \text{ の起こる確率は } \left(\frac{2}{3}\right)^2 \cdot \left(\frac{1}{3}\right) \cdot {}_2C_1 \cdot \left(\frac{2}{3}\right) \cdot \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{16}{3^5}$$

$$(ii) \text{ の起こる確率は } \left(\frac{1}{3}\right)^2 \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{8}{3^5}$$

$$(i), (ii) \text{ より, 求める確率は } \frac{16}{3^5} + \frac{8}{3^5} = \frac{8}{81}$$

**別解** (i), (ii) をまとめて計算することもできる.

(i), (ii) をまとめると、Aが3回、Bが2回起こるときで、1つの赤玉が左から3番目、もう1つの赤玉が1番目または5番目または6番目に並ぶときである. よって確率は

$$3 \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^3 \cdot \left(\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{8}{81}$$

**別解** 終わり

(イ) 左から5番目の玉が赤玉となるのは、次の3通りである.

(i) 最初の4回でAが起こり、5回目にBが起こる

(ii) 最初の3回でAが2回、Bが1回起こり、4回目にBが起こる

(iii) 最初の2回でBが起こり、3回目にBが起こる

$$(i) \text{ の起こる確率は } \left(\frac{2}{3}\right)^4 \cdot \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{16}{3^5}$$

$$(ii) \text{ の起こる確率は } {}_3C_1 \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^2 \cdot \left(\frac{1}{3}\right) \cdot \left(\frac{1}{3}\right) \cdot 1 = \frac{36}{3^5}$$

$$(iii) \text{ の起こる確率は } \left(\frac{1}{3}\right)^2 \cdot \left(\frac{1}{3}\right)^1 \cdot 1^2 = \frac{9}{3^5}$$

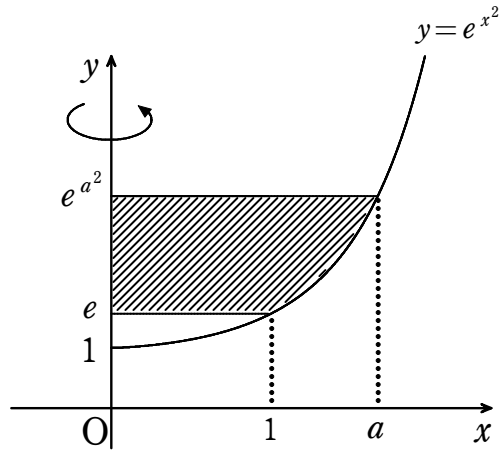
$$(i), (ii), (iii) \text{ より, 求める確率は } \frac{16+36+9}{3^5} = \frac{61}{243}$$

[2]

(1)  $y=e^{x^2}$  より  $x^2=\log y$

求める体積  $V$  は、右図の斜線部分を  $y$  軸の周りに回転させてできる立体の体積であるから

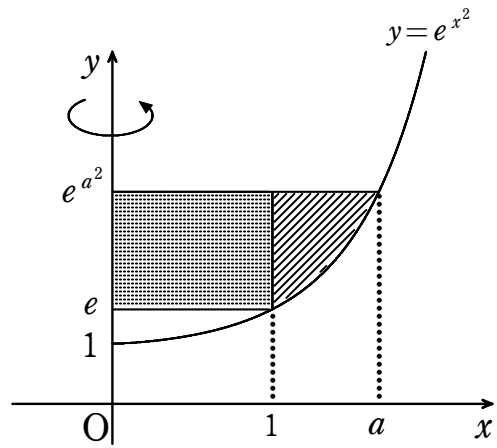
$$\begin{aligned} V &= \int_e^{e^{a^2}} \pi x^2 dy = \pi \int_e^{e^{a^2}} \log y dy \\ &= \pi \left[ y \log y - y \right]_e^{e^{a^2}} \\ &= \pi e^{a^2} (a^2 - 1) \end{aligned}$$



**別解**  $y$  軸まわりの回転体の体積なので、バームクーヘン分割を用いてもよい。

右図の網目部分を  $y$  軸のまわりに回転させた図形は円柱であるから、これと斜線部分を回転させた図形の体積を考えて、

$$\begin{aligned} V &= \pi \cdot 1^2 \cdot (e^{a^2} - e) + \int_1^a 2\pi x (e^{a^2} - e^{x^2}) dx \\ &= \pi (e^{a^2} - e) + 2\pi e^{a^2} \int_1^a x dx - \pi \int_1^a 2x \cdot e^{x^2} dx \\ &= \pi (e^{a^2} - 1) + 2\pi e^{a^2} \left[ \frac{1}{2} x^2 \right]_1^a - \pi \left[ e^{x^2} \right]_1^a \\ &= \pi e^{a^2} (a^2 - 1) \end{aligned}$$



**別解** 終わり

(2)  $y=e^{x^2}$  より  $y'=2xe^{x^2}$

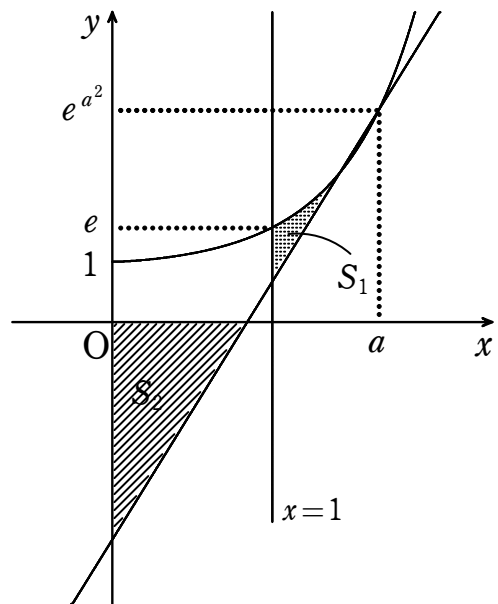
$(a, e^{a^2})$  における接線の方程式は

$$y = 2ae^{a^2}(x - a) + e^{a^2}$$

$$\therefore y = 2ae^{a^2}x - e^{a^2}(2a^2 - 1) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

よって

$$\begin{aligned} S_1 &= \int_1^a \{ e^{x^2} - 2ae^{a^2}x + e^{a^2}(2a^2 - 1) \} dx \\ &= \int_1^a e^{x^2} dx + e^{a^2} \left[ -ax^2 + (2a^2 - 1)x \right]_1^a \\ &= \int_1^a e^{x^2} dx + e^{a^2} (a^3 - 2a^2 + 1) \end{aligned}$$



また, ①において

$$x=0 \text{ のとき } y = -e^{a^2}(2a^2-1) < 0 \quad (\because a > 1)$$

$$y=0 \text{ のとき } x = \frac{2a^2-1}{2a} > 0 \quad (\because a > 1)$$

であるから

$$S_2 = \frac{1}{2} \cdot e^{a^2}(2a^2-1) \cdot \frac{2a^2-1}{2a} = \frac{e^{a^2}(2a^2-1)^2}{4a}$$

したがって

$$\begin{aligned} \frac{S_1}{S_2} &= \frac{4a}{e^{a^2}(2a^2-1)^2} \left\{ \int_1^a e^{x^2} dx + e^{a^2}(a^3-2a^2+1) \right\} \\ &= \frac{4a \int_1^a e^{x^2} dx}{e^{a^2}(2a^2-1)^2} + \frac{4a(a^3-2a^2+1)}{(2a^2-1)^2} \end{aligned}$$

ここで  $1 \leq x \leq a$  のとき,  $0 < e^{x^2} \leq e^{a^2}$  が成り立つから, 各辺を  $1 \leq x \leq a$  で定積分すると, 等号は明らかに成り立たず,

$$0 < \int_1^a e^{x^2} dx < \int_1^a e^{a^2} dx = e^{a^2}(a-1)$$

$$\text{各辺に } \frac{4a}{e^{a^2}(2a^2-1)^2} \text{ をかけると } 0 < \frac{4a \int_1^a e^{x^2} dx}{e^{a^2}(2a^2-1)^2} < \frac{4a(a-1)}{(2a^2-1)^2}$$

$$\text{よって } \frac{4a(a^3-2a^2+1)}{(2a^2-1)^2} < \frac{S_1}{S_2} < \frac{4a(a-1)}{(2a^2-1)^2} + \frac{4a(a^3-2a^2+1)}{(2a^2-1)^2} \text{ が成り立つ.}$$

$$\text{このとき } \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{4a(a^3-2a^2+1)}{(2a^2-1)^2} = \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{4 \left( 1 - \frac{2}{a} + \frac{1}{a^3} \right)}{\left( 2 - \frac{1}{a^2} \right)^2} = \frac{4}{2^2} = 1$$

$$\text{また } \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{4a(a-1)}{(2a^2-1)^2} = \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{4 \left( \frac{1}{a^2} - \frac{1}{a^3} \right)}{\left( 2 - \frac{1}{a^2} \right)^2} = 0$$

$$\text{したがって, はさみうちの原理により } \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{S_1}{S_2} = 1$$

[ 3 ]

(1)  $0 \leq x \leq \pi$  のとき,  $\cos x$  は常に減少関数であり,  
かつ  $\sin 2ax \leq 0$  のとき,  $\cos 2ax$  は増加関数である

ことから, 連立不等式  $\begin{cases} \cos x \leq \cos 2ax \\ \sin 2ax \leq 0 \end{cases}$  を満たす  $2ax$

の範囲は,  $l=1, 2, 3, \dots, a$  とすると

$$-x + 2l\pi \leq 2ax \leq 2l\pi$$

$$\therefore \frac{2l}{2a+1}\pi \leq x \leq \frac{l}{a}\pi \quad \dots\dots ①$$

と表せる.

$$\frac{2(l+1)}{2a+1} - \frac{l}{a} = \frac{2a-l}{a(2a+1)} > 0$$

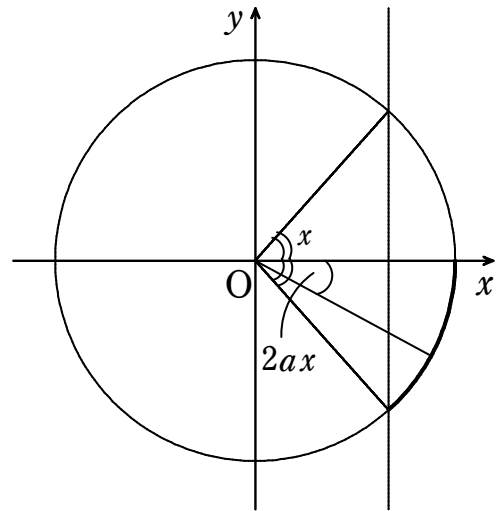
であるから,  $l=1, 2, 3, \dots, a$  のとき, ① は互いに  
共通部分を持たない  $a$  個の閉区間を表すから  $n=a$  である.

閉区間 ① の長さは  $\frac{l}{a}\pi - \frac{2l}{2a+1}\pi = \frac{l}{a(2a+1)}\pi$  であり, これは  $l$  に関する増加数列であるから,

小さい方から順に

$$x_k = \frac{k}{a(2a+1)}\pi \quad (k=1, 2, 3, \dots, a)$$

$$\text{よって} \quad \theta_k = 2b(2a+1) \cdot \frac{k\pi}{a(2a+1)} = 2k\pi \cdot \frac{b}{a} \quad \blacksquare$$



**別解** 和積変換を用いて不等式を解くこともできる.

$$\cos 2ax \leq \cos x \text{ より} \quad \cos 2ax - \cos x \leq 0$$

$$\text{和積変換により} \quad -2\sin \frac{(2a+1)x}{2} \sin \frac{(2a-1)x}{2} \leq 0$$

$$\text{よって} \quad \sin \frac{(2a+1)x}{2} \sin \frac{(2a-1)x}{2} \leq 0 \Leftrightarrow \begin{cases} \sin \frac{(2a+1)x}{2} \geq 0 \\ \sin \frac{(2a-1)x}{2} \leq 0 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} \sin \frac{(2a+1)x}{2} \leq 0 \\ \sin \frac{(2a-1)x}{2} \geq 0 \end{cases}$$

$k$  を整数とすると

$$\begin{cases} 2k\pi \leq \frac{(2a+1)x}{2} \leq (2k+1)\pi \\ (2k-1)\pi \leq \frac{(2a-1)x}{2} \leq 2k\pi \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} (2k+1)\pi \leq \frac{(2a+1)x}{2} \leq (2k+2)\pi \\ 2k\pi \leq \frac{(2a-1)x}{2} \leq (2k+1)\pi \end{cases}$$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} \frac{4k\pi}{2a+1} \leq x \leq \frac{(4k+2)\pi}{2a+1} \\ \frac{(4k-2)\pi}{2a-1} \leq x \leq \frac{4k\pi}{2a-1} \end{cases} \quad \dots\dots ① \quad \text{または} \quad \begin{cases} \frac{(4k+2)\pi}{2a+1} \leq x \leq \frac{(4k+4)\pi}{2a+1} \\ \frac{4k\pi}{2a-1} \leq x \leq \frac{(4k+2)\pi}{2a-1} \end{cases} \quad \dots\dots ②$$

ここで  $\frac{4k-2}{2a-1} < \frac{4k}{2a+1} < \frac{4k}{2a-1} < \frac{4k+2}{2a+1}$  が成り立つから, ① を満たすのは

$$\frac{4k\pi}{2a+1} \leq x \leq \frac{4k\pi}{2a-1} \quad \dots\dots ③$$

また  $\frac{4k}{2a-1} < \frac{4k+2}{2a+1} < \frac{4k+2}{2a-1} < \frac{4k+4}{2a+1}$  が成り立つから、②を満たすのは

$$\frac{(4k+2)\pi}{2a+1} \leq x \leq \frac{(4k+2)\pi}{2a-1} \quad \dots\dots④$$

$0 \leq x \leq \pi$  であるから、③、④をまとめると  $k=1, 2, 3, \dots, a$  のとき

$$\frac{2k\pi}{2a+1} \leq x \leq \frac{2k\pi}{2a-1} \quad \dots\dots⑤$$

また  $k=1, 2, 3, \dots, a$  のとき

$$\begin{aligned} \sin 2ax \leq 0 &\Leftrightarrow (2k-1)\pi \leq 2ax \leq 2k\pi \\ &\Leftrightarrow \frac{(2k-1)\pi}{2a} \leq x \leq \frac{k}{a}\pi \quad \dots\dots⑥ \end{aligned}$$

⑤、⑥の共通部分をとると  $\frac{2k\pi}{2a+1} \leq x \leq \frac{k}{a}\pi \quad (k=1, 2, 3, \dots, a)$

これは互いに共通部分を持たない  $a$  個の閉区間を表すから、 $n=a$  である。

以下、本解答同様。

別解 終わり

(2)  $kb$  を  $a$  で割ったときの商が  $q_k$ 、余りが  $r_k$  であるから、次の式が成り立つ。

$$kb = a \cdot q_k + r_k$$

「 $1 \leq i < j \leq a$  を満たす任意の自然数  $i, j$  に対し  $r_i \neq r_j$  が成り立つ」という命題を

(A) とする。

$1 \leq i < j \leq a$  を満たす自然数  $i, j$  が存在し、 $r_i = r_j$  が成り立つと仮定すると

$$ib = a \cdot q_i + r_i, \quad jb = a \cdot q_j + r_i$$

2式の差をとると  $b(j-i) = a(q_j - q_i)$

右辺は  $a$  の倍数であるから、 $b(j-i)$  も  $a$  の倍数となるが、 $a$  と  $b$  は互いに素で  $a \geq 2$

であることと、 $1 \leq i < j \leq a$  より  $0 < j-i < a$  であることから矛盾する。

よって、(A) は成り立つ。 ■

$Z_k(\cos \theta_k, \sin \theta_k)$  と表され、 $\theta_k$  について

$$\theta_k = 2k\pi \cdot \frac{b}{a} = 2\pi \cdot \frac{kb}{a} = 2\pi \left( q_k + \frac{r_k}{a} \right) = 2\pi q_k + \frac{2r_k}{a} \pi$$

ここで、 $a$  で割ったときの余りは  $0, 1, 2, \dots, a-1$  のいずれかであり、(A) より、

$r_k (k=1, 2, 3, \dots, a)$  は全て異なる値であることから、鳩ノ巣原理により、

$r_1, r_2, r_3, \dots, r_a$  は  $a$  個の値  $0, 1, 2, \dots, a-1$  を1つずつとる。

また、 $2\pi q_k$  は  $2\pi$  の整数倍を表すから、動径  $OZ_k$  が  $x$  軸正の部分となす角を小さい

順に並べると

$$0, \frac{2}{a}\pi, \frac{4}{a}\pi, \dots, \frac{2(a-1)}{a}\pi (< 2\pi)$$

となる。これらは  $2\pi$  を  $a$  等分するものであるから、点  $Z_k (k=1, 2, 3, \dots, a)$  は

単位円を  $a$  等分する点である。 ■

[4]

四角形  $A_1B_1C_1D_1$  は正方形である.

四角形  $A_nB_nC_nD_n$  が正方形であると仮定すると,

$A_nK_n = B_nH_n$  であることから

$$\triangle A_nB_nK_n \cong \triangle B_nC_nH_n$$

よって  $\angle A_nB_nK_n = \angle B_nC_nH_n = \theta$  とおける.

このとき,  $\angle C_nB_nB_{n+1} = \frac{\pi}{2} - \theta$  であるから,

$$\begin{aligned} \angle C_nB_{n+1}K_n &= \angle B_nC_nH_n + \angle C_nB_nB_{n+1} \\ &= \theta + \frac{\pi}{2} - \theta = \frac{\pi}{2} \end{aligned}$$

同様に  $\angle D_nC_{n+1}H_n = \angle A_nD_{n+1}I_n = \angle B_nA_{n+1}J_n = \frac{\pi}{2}$  が成り立つ.

また,  $\triangle A_nA_{n+1}K_n \cong \triangle B_nB_{n+1}H_n \cong \triangle C_nC_{n+1}I_n \cong \triangle D_nD_{n+1}J_n$  より,

$$A_{n+1}B_{n+1} = B_{n+1}C_{n+1} = C_{n+1}D_{n+1} = D_{n+1}A_{n+1}$$

が成り立つから, 四角形  $A_{n+1}B_{n+1}C_{n+1}D_{n+1}$  は正方形である.

したがって, 任意の自然数  $n$  について, 帰納的に四角形  $A_nB_nC_nD_n$  は正方形となる.

正方形  $A_nB_nC_nD_n$  の1辺の長さを  $x_n$  とおく.

$B_{n+1}$  を通り,  $A_nB_n$  に平行な直線と, 辺  $A_nJ_n$  の交点を  $P$  とすると  $PB_{n+1} = A_nH_n = tx_n$

また,  $\triangle A_nB_nK_n \sim \triangle A_{n+1}B_nA_n \sim \triangle A_{n+1}B_nA_n$  であるから

$$A_{n+1}B_{n+1} : PB_{n+1} = A_nB_n : K_nB_n = x_n : \sqrt{t^2 - 2t + 2} x_n = 1 : \sqrt{t^2 - 2t + 2}$$

$$\text{よって } A_{n+1}B_{n+1} = \frac{1}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}} PB_{n+1} = \frac{t}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}} x_n$$

正方形  $A_nB_nC_nD_n$  と正方形  $A_{n+1}B_{n+1}C_{n+1}D_{n+1}$  の相似比は,  $\triangle A_nA_{n+1}K_n$  と  $\triangle A_{n+1}A_{n+2}K_{n+1}$

の相似比に等しいから,  $\triangle A_nA_{n+1}K_n$  の面積  $a_n$  について, 次の式が成り立つ.

$$a_{n+1} = \left( \frac{t}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}} \right)^2 x_n^2 = \frac{t^2}{t^2 - 2t + 2} a_n$$

また,  $x_1 = 1$  より  $A_1A_2 = \frac{1-t}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}}$ ,  $A_2K_1 = \frac{(1-t)^2}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}}$  であるから

$$a_1 = \frac{1}{2} \cdot A_1A_2 \cdot A_2K_1 = \frac{(1-t)^3}{2(t^2 - 2t + 2)}$$

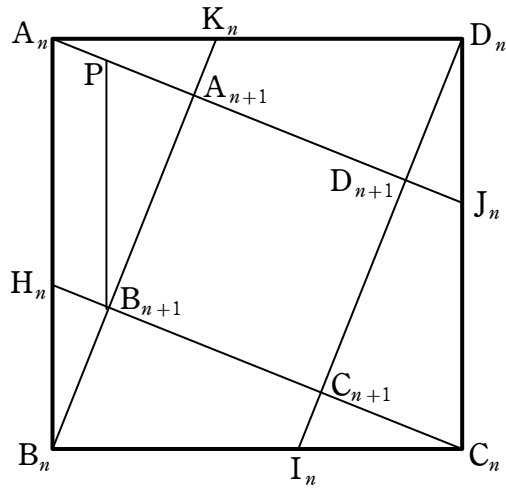
$0 < t < 1$  のとき  $(t^2 - 2t + 2) - t^2 = 2(1-t) > 0$  であるから

$$0 < t^2 < t^2 - 2t + 2 \quad \therefore 0 < \frac{t^2}{t^2 - 2t + 2} < 1$$

$$\text{よって } \sum_{n=1}^{\infty} a_n = \frac{a_1}{1 - \left( \frac{t^2}{t^2 - 2t + 2} \right)} = \frac{(1-t)^3}{2(t^2 - 2t + 2)} \cdot \frac{t^2 - 2t + 2}{-2t + 2} = \frac{(1-t)^2}{4}$$

これが  $\frac{1}{8}$  となるとき  $\frac{(1-t)^2}{2} = \frac{1}{4}$

$$0 < t < 1 \text{ より } 1-t > 0 \text{ であるから } 1-t = \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \therefore t = \frac{2-\sqrt{2}}{2}$$



別解1 正方形の相似比は、三角比を用いて調べてもよい。

$$\angle A_n K_n A_{n+1} = \theta \text{ とおくと } \sin \theta = \frac{1}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}}, \quad \cos \theta = \frac{1-t}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}}$$

正方形  $A_n B_n C_n D_n$  の1辺の長さを  $x_n$  とすると、 $\angle B_n H_n B_{n+1} = \theta$  であるから

$$\begin{aligned} x_{n+1} &= A_{n+1} B_{n+1} = B_n K_n - B_n B_{n+1} - A_{n+1} K_n \\ &= \sqrt{t^2 - 2t + 2} x_n - B_n H_n \sin \theta - A_n K_n \cos \theta \\ &= \sqrt{t^2 - 2t + 2} x_n - \frac{(1-t)x_n}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}} - \frac{(1-t)^2}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}} x_n \\ &= \frac{t}{\sqrt{t^2 - 2t + 2}} x_n \end{aligned}$$

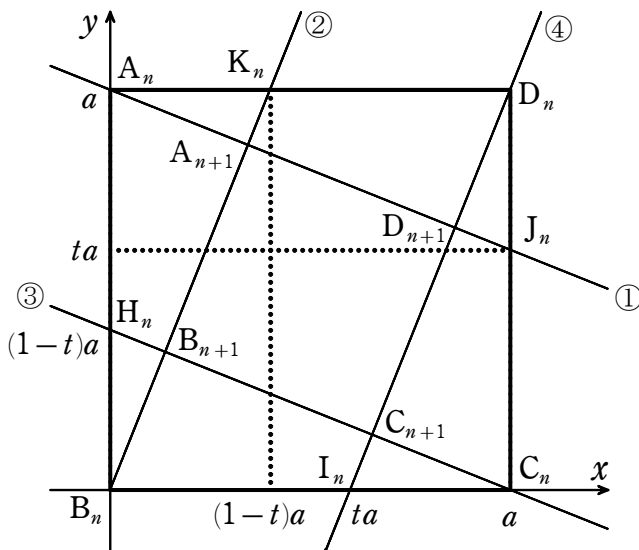
以下、本解答同様。

別解1 終わり

別解2 正方形の相似比は、座標を用いて調べてもよい。計算は面倒であるが、図形的な思考は不要となる。

四角形  $A_1 B_1 C_1 D_1$  は正方形である。

四角形  $A_n B_n C_n D_n$  が正方形であると仮定し、 $|\overrightarrow{A_n B_n}| = a$  とすると



$A_n(0, a)$ ,  $B_n(0, 0)$ ,  $C_n(a, 0)$ ,  $D_n(a, a)$  と座標設定でき、

$$H_n(0, (1-t)a), I_n(ta, 0), J_n(a, ta), K_n((1-t)a, a)$$

となる。このとき、直線  $A_n A_{n+1}$ ,  $B_n B_{n+1}$ ,  $C_n C_{n+1}$ ,  $D_n D_{n+1}$  の方程式はそれぞれ

$$y = -(1-t)x + a \quad \dots\dots ①$$

$$y = \frac{1}{1-t}x \quad \dots\dots ②$$

$$y = -(1-t)x + (1-t)a \quad \dots\dots ③$$

$$y = \frac{1}{1-t}(x - ta) \quad \dots\dots ④$$

と表せる。



直線②と直線③は垂直であり、

直線①は直線③を  $y$  軸方向に  $ta$  だけ平行移動したもの、

直線④は直線②を  $x$  軸方向に  $ta$  だけ平行移動したもの

であるから、これらの交点で作られる四角形  $A_{n+1}B_{n+1}C_{n+1}D_{n+1}$  は正方形となる。

よって、任意の自然数  $n$  について、帰納的に四角形  $A_nB_nC_nD_n$  は正方形となる。

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ を連立させると } \left(1-t + \frac{1}{1-t}\right)x = a \quad \therefore x = \frac{(1-t)a}{t^2-2t+2}$$

$$\textcircled{2} \text{ に代入すると } y = \frac{a}{t^2-2t+2} \text{ であるから } A_{n+1} \left( \frac{(1-t)a}{t^2-2t+2}, \frac{a}{t^2-2t+2} \right)$$

$$\textcircled{2}, \textcircled{3} \text{ を連立させると } \left(1-t + \frac{1}{1-t}\right)x = (1-t)a \quad \therefore x = \frac{(1-t)^2a}{t^2-2t+2}$$

$$\textcircled{2} \text{ に代入すると } y = \frac{(1-t)a}{t^2-2t+2} \text{ であるから } B_{n+1} \left( \frac{(1-t)^2a}{t^2-2t+2}, \frac{(1-t)a}{t^2-2t+2} \right)$$

$$\text{よって } \overrightarrow{B_{n+1}A_{n+1}} = \frac{1}{t^2-2t+2}(t(1-t)a, ta) = \frac{ta}{t^2-2t+2}(1-t, 1)$$

$$\text{であるから } |\overrightarrow{B_{n+1}A_{n+1}}| = \frac{t}{\sqrt{t^2-2t+2}}a = \frac{t}{\sqrt{t^2-2t+2}}|\overrightarrow{B_nA_n}|$$

正方形  $A_nB_nC_nD_n$  と正方形  $A_{n+1}B_{n+1}C_{n+1}D_{n+1}$  の相似比は、 $\triangle A_nA_{n+1}K_n$  と  $\triangle A_{n+1}A_{n+2}K_{n+1}$

の相似比に等しいから、 $\triangle A_nA_{n+1}K_n$  の面積  $a_n$  について

$$a_{n+1} = \left( \frac{t}{\sqrt{t^2-2t+2}} \right)^2 a_n = \frac{t^2}{t^2-2t+2} a_n$$

が成り立つ。また、 $|\overrightarrow{A_1B_1}| = 1$  より  $A_2 \left( \frac{1-t}{t^2-2t+2}, \frac{1}{t^2-2t+2} \right)$ ,  $K_1(1-t, 1)$  であるから

$$a_1 = \frac{1}{2} \cdot (1-t) \cdot \left( 1 - \frac{1}{t^2-2t+2} \right) = \frac{(1-t)^3}{2(t^2-2t+2)}$$

以下、本解答同様。

別解2 終わり